

平成30年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す
- ②基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

2万3千人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承するとともに、更なる学校の活性化に向けて、「生徒一人一人に寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、社会で活躍する人材を育成するために、次の4点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
更に、今年度の合い言葉として「さわやか佐賀学園を目指して ～勉学に部活動に全力投球～」を掲げ、生徒・教職員が一丸となって目標達成に向けて取り組む。
①授業の充実
アクティブラーニングへの取り組みなど教材研究を充実させ、生徒にわからせる授業の展開や宿題・課題の提出を日常的に行い家庭学習の習慣化を図ること、さらに、資格取得の推進を図ることで、生徒を意欲的な学習に向かわせる。
②マナーアップ(正しい制服の着こなし・立ち振る舞い)
まず形を作る意味で、挨拶・服装・礼儀について年度当初に付け教育を徹底して行う。また、内面の充実(規範意識の醸成)を目指して、生徒の心に響く話をホームルームや個人面談で行い、さわやかな言動を身に付けさせることで地域社会の信頼を得ることを目指す。
③教育環境の整備
清掃活動を重視し、生徒の机のまわりの整理や教室の整理整頓、校舎全体の環境整備をすることで、授業への雰囲気づくりや学校生活へ意欲向上を図る。また、同様に職員室の整理整頓、職員室の机の整理を義務付ける。
④部活動の強化
部活動加入率を向上させ、部活動生徒を普段の学校生活の核になる人物に育てる。また、高校総合体育大会等で優勝旗を4本以上とることを目指す。

4 前年度の成果と課題

年度の重点目標の周知は職員・保護者ともまだ不十分である。生徒の基礎学力向上は授業への意欲、マナトレの取組とともに課題である。進路については成瀬高等部の進路保障を含め一定の成果があった。地域から信頼される学校を目指して、生徒の学習意欲と学力向上、本校生徒として自覚ある立ち振る舞いの醸成を全職員一丸となって取り組む。また、制服の着こなし、マナーアップ、環境美化を推進する必要がある。そして、部活動加入率の増加、部活動の実績向上を図る中で自己肯定感を持つ生徒を育てたい。生徒募集は対策室をはじめ教職員の努力はあったが、目標値をクリアするはできなかった。佐賀市内中学校からの生徒の確保については厳しい状況が続いている。初任者研修については担当職員の頑張りにあっても一定の成果を得た。
平成30年度は、地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が最重点課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために教師及び生徒が共に真剣に授業に取り組むこと、マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動の実績向上を目指したい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知し、重点目標に積極的に取り組むことができたか。 ・重点目標に従い、各分掌等で具体的な行動目標が実践できているか定期的に進捗状況を把握できたか。 ・職員の資質向上を図ることができたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を昨年度以上にする。(昨年度生徒40.0%、保護者25.5%) ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を昨年度以上にする。(昨年度生徒43.0%、保護者60.8%) ・分掌・学年が決めた目標達成に向けて部長・主任へのアドバイスを頻繁に行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との面談の機会を多くもつ。	・全校集会、振興会総会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して毎月面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・初任者研修で若手職員の育成、授業見学によりベテラン教員の更なる充実を図る。	C	・重点目標の周知と取り組みについては生徒・保護者とも前年度を下回った。学校・生徒・保護者が一丸となるための具体的な取り組みが必要だ。生徒に周知させる方法として教室掲示も考えたい。 ・各部長、学年主任との面談は必要に応じて行ったが、毎月の面談はできなかった。 ・授業参観も不十分であった。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生及びその保護者、中学校に正しく伝えられたか。 ・受験者増加につながる募集活動が全職員、学校をあげて行えたか。	・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで他校にない本校の良さを理解させる。 ・受験者増加につながる募集活動が全職員、学校をあげて行えたか。 ・受験者数の前年度比110%、推薦、専願入学者数180名を目標とする。	・募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に斬新な戦略を練る。 ・基礎、基本を重視した教育プログラム、施設設備の充実と情報処理教育の力、活発な部活動とその活躍をアピールする。 ・中学校長特別特推薦制度を有効活用する。	B	・志願者数前年比12%減の結果であった。推薦、専願優遇制度の検討と見直しが必要と思われる。本校の魅力伝えていく地道な取り組みを、全職員で展開し定員の確保に努めたい。 ・中学校長特別特推薦制度を有効活用する。
	学校事務	・地域社会から信頼される学校づくりを目指す。	・学校への来客や電話対応の最初の窓口である事務職員の接客能力の向上を図る。	・来客者への気持ちの良い挨拶を励行する。 ・電話の受電や取次時は、相手をお待たせしないよう心掛ける。	B	・後方からの波乗り挨拶を励行することで、日々の来客者をお迎えることができた。 ・3コール以内での受電を心がけていたがしばしば遅れることもあったので、今後改善していく。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加することにより指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センターの研修講座に3年間で1回以上年間15名以上参加する。 ・各教科で所定数の研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。	B	・教育センターの専門講座については13講座20名が参加し研修を行った。 ・発達障害についての職員研修を実施した。 ・研究授業については計画通りには実施できなかった。 ・公開授業週間では授業参観の感想を授業担当者や教務に提出してもらった。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立と「生徒の興味関心につながるわかる授業」を展開する。 ・家庭学習の習慣化と進路に対応できる学力を定着させる。 ・年内の就職内定100%を達成する。 ・受験に対応した学力と基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・県下一斉就職学力テスト(3年次)の得点率のアップを目指す。 ・成瀬高等部を牽引力とした国公立大学合格者数増加を目指す。	・学習規範を定着させる。 ・各教科を機能させ「分かる授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・平時より課題を課し、評価する。 ・マナトレを利用した基礎学力の向上を目指す。 ・担任によるFINE SYSTEMの活用により具体的な指導を活性化させる。 ・進路調査、適性検査などで個々の客観的データを分析する。 ・就職希望者の学力向上対策セミナーおよび面接指導を実施する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。	B	・学力の定着のためにきめ細かな個別指導と指導体制の連携の更なる充実が必要である。
	進路指導	・各学年における進路意識が、具体的な行動に反映されたか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・進路を実現するために基礎学力がついたか。 ・希望進路が具体的な進路保障に繋がったか。 ・生徒の覚悟のある進路実現に繋がったか。	・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・県下一斉就職学力テスト(3年次)の得点率のアップを目指す。 ・成瀬高等部を牽引力とした国公立大学合格者数増加を目指す。	・マナトレを利用した基礎学力の向上を目指す。 ・担任によるFINE SYSTEMの活用により具体的な指導を活性化させる。 ・進路調査、適性検査などで個々の客観的データを分析する。 ・就職希望者の学力向上対策セミナーおよび面接指導を実施する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。	B	・各学年に対しての外部講演会や進路ガイダンスにより具体的な進路指導が実施できた。 ・進学に関しては、普通科、情報処理科から国公立大学に合格した。また、指定校推薦やAO入試等の利用により合格はしているが、その後の実力養成に課題が残る。 ・就職に関しては、若干名の未決定者を残したままだが、意識の醸成を促す必要がある。 ・FINE SYSTEMの活用により課題が残る。
	生徒指導	・制服は正しく着用できているか。 ・交通ルール・マナーは守られているか。 ・挨拶返事は元気よくできているか。	・制服を正しく着用する。 ・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間誰とでもコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。	・型にこだわる指導と並行して内面的な指導を加えていく。 ・交通安全に対する意識向上は生命の大切さの教育でもある。 ・生活習慣の向上を意識させる。	C	・今年度重点目標の一つでもあるマナーアップに対して生徒の意識向上とまていかなかった。 ・自転車利用者の中で、並進や危険運転(スマホを見ながら)などで注意・指導が入ることが増加した。 ・SNSトラブルが全国的に問題となっている。本校でも細かなルールづくりをして十分な対策をしたい。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。	・美化コンクールなどにより校舎使用のマナーやモラルの向上を図る。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。 ・全員清掃の時間を設ける。 ・職員の清掃意識の向上を図る。	B	・ゴミの分別は良くなってきたが、ゴミ袋の記名が徹底できていない。 ・生徒の美化意識は向上しつつあるが、より充実させることができると思われる。 ・イス、机の脚に汚れ防止のテープを張っているが、消しゴムのカスを引きずってあまり効果がない。
特定課題	課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活の部員数を増加させる。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・部活紹介を工夫し、生徒に興味を持たせる。 ・文武両道が実践できるように授業と部活動の質を高める。	B	・新設された部活動や各大会での上位入賞の影響もあり、部活加入率も増加した。今後も加入率増加を目標に工夫を凝らしたい。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	所属学級担任・学年主任・授業担当者・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談委員会の職員と保護者との連携を図り生徒への対応が充分に行えたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、所属学級へ戻るよう努力する。 ・学校行事や集会等にも積極的に参加できるように指導する。 ・教育相談室での学習に積極的に取り組める雰囲気づくりを行い、生徒に達成感や満足感を味わわせるよう指導する。	・職員の連携を密にし、保護者との連携も図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようサポートする。 ・生徒会の職員と連携を図り、学校行事等にできるだけ参加できるようにする。 ・所属学級の教科担当者や連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力を向上を図る。	B	・相談室担当職員が3人になり、登下校が通常の時間帯に統一されたことで、生徒のサポート体制の充実や成長に繋がった。 ・学校行事への参加は、生徒の意思を尊重しつつ行うことができた。 ・所属学級への復帰に関しては課題が残る。今まで以上に教育相談室担当者・関係職員・SCとの連携を密に行い支援していく必要がある。また、自習中の態度や相談室での過ごし方に関して、ルールの再確認・再構築が必要であると思われる。
	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分であるかどうか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になってもすぐに活かせることを目指す。	・机上学習で学び、礼法室での実技を通し体得させる。	B	・礼法検定を全学年実施したが検定の実施場所の確保が難しかった。 ・日常的なマナーが十分に身に付いていない。
	生徒会活動	・校内外の問題を自分たちで考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・地域行事への参加を通し社会貢献を果たす。	・生徒の意見に積極的に耳を傾け、関連分掌・学年・学級との連携を図る。	B	・校内外で積極的な生徒会活動ができた。更に活動範囲を広げ、社会性の向上と共に社会貢献を果たしたい。
キャリア教育・マナトレ	・毎日のマナトレの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナトレ及び基礎力診断テストを活用することでGTZの値がD2ゾーン以上の学力に達することを目標とする。	・マナトレのより良い活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。 ・認定テストの分析、ICTの活用などを行うことで学力向上を図る。 ・キャリアノートやインターンシップを活用することで進路保障に結びつけることができるよう指導の充実を図る。	C	・マナトレについては理解できている生徒も多いと思うが、一部生徒の学習への取り組み方に課題が残る。成果を上げることができず基礎学力が定着していない生徒もいる。基礎学力向上のセミナーの実施を来年度から再び検討する必要があると思う。 ・キャリアノートは年間での使用回数が少なく、有効に活用できないのが現状である。生徒の進路意識や、インターンシップを生かしたキャリア教育を実践しなければならない。 ・基礎力診断テストでD2ゾーンに向上させた生徒もいるが、まだまだ3教科全てでD3の生徒もいる。放課後の学習となれば、部活動との兼ね合いも課題である。	

6 総合評価

評価項目ごとの各係の評価はおおむね達成の「B」がほとんどで、それぞれの部署でしっかりとした取り組みが見られた。ただ全体として、生徒の授業への取り組みやマナーアップ、清掃活動の取り組み、規範意識などまだまだ不十分ところがある。進路の保障でも課題が残った。

7 次年度への課題・改善策

生徒の学習意欲の向上や家庭学習の習慣化、そのための電子黒板を用いた授業やアクティブラーニングへの取り組みなど教師の教材研究が必要だ。また、マナーアップによりさわやか佐賀学園の形づくりを推進し、地域に信頼される学校づくりを目指す。そのことが入学生徒数の増加にも繋がる。